

京交山岳部報

〔第1696回例会〕辰歳シリーズ

龍 門 岳 (I)△904.3M

日 時 8月7日(日) 集合 壬生 AM6:30
 コース 京都-桜井-三津……龍門岳……往路下山
 担当者 本局 大槻雅弘(TEL 722)
 備考 申込べ切日 8月5日
 その他 是非シリーズを通じて1年間12月まで龍の山にチャレンジして下さい。 地図 1/5万 吉野山
 1/2.5万 古市場

〔第1697回例会〕

北白川の史跡めぐり

日 時 8月14日(日) 集合 修学院離宮正門前 AM10:00
 コース 修学院→音羽川遡行→てんこ山→狸谷不動→瓜生山→北白川
 担当者 OB、奥村弘信(TEL791-7450)
 備考 申込べ切日 8月12日
 その他 市内の身近な谷に面白い所があります。距離は短いです
 が、夏らしいコースです。

〔第1698回例会〕

第2回夏山キャンプ大会(鈴鹿・神崎川)

日 時 8月20日(土)~8月21日(日) 集合 壬生 PM2:00
 コース 鈴鹿永源寺ダム上流でキャンプファイヤー(20日)
 (21日)Aコース-神崎川沢登り
 Bコース-近くのピーク散策
 担当者 OB津田 実(778)本局 大槻雅弘(722)井戸澄夫(849)
 備考 申込べ切日 8月17日 担当者まで

費用 3,000円(小人1,500円)
その他 家族そろって参加して下さい。

[第1699回例会]

平ヶ岳と魚沼駒ヶ岳

日時 8月26日(金)～29日(月) 集合 壬生 PM7:00
コース 26日 京都東IC-北陸長岡IC-関越小出IC
27日 R352鷹ノ巣平ヶ岳登山口……下台倉山……台倉山……平ヶ岳△2,141m(往路下山)約11時間 銀山平キャンプ場
28日 キャンプ場-枝折峠…明神峠…道行山…小倉山…駒ヶ岳△2002.7m(往路下山)約9時間…湯之谷温泉泊り
29日 湯之谷温泉-帰洛
担当者 本局 大槻雅弘(722) 梅津 吉田 武(788)
費用 25,000円
備考 深田久弥の日本百名の一つである平ヶ岳、と駒ヶ岳を昨年の谷川岳、巻機山等三角点に続き、登ります。夜行発と長時間歩行の為参加者は定員6名と限定します。

[第1700回例会] 京滋バイパス開通記念

雷 倉

日時 8月28日(日) 集合 参加者と打合せ
コース 宇治-京滋バイパス-名神-関ヶ原-小津…雷倉…往路下山
担当者 錦林 田中忠久(TEL 855 771-5501)
備考 申込〆切日 8月25日
費用 交通費(実費)

今月の集会

インドア「岩登り技術と用具」

大倉寛治郎

8月10日(水) PM6:30 厚生会館4F 大教室

企画運営委員会

8月22日(月) PM6:00 厚生会館4F大教室

1988年京交山岳部夏季

ファミリー ジャンボリー

一本のザイルに命を掛けて二人が岩壁を登る、一人が滑ったら、もう一人の命もない、そこに登山家の信頼があり友情がある。

そこに山に命を掛けた男のロマンがあり、女の愛がある。

そこに山に生きる者のみに許された何か？がある。

その何か？を、ともに語り、ともに話し、星空の下、楽しい一夜を過ごそうではありませんか。

同好の志よ来れ

と き 8 月 20 日(土)～ 21 日(日)

行 き 先 湖 東 神 崎 川 発 電 所 前 河 原

集 合 日 時 8 月 20 日(土) P M 2:00

集 合 場 所 壬 生 厚 生 会 館 前

催 し

花 火 焼 き 肉 キャンプ、ファイヤーを
囲んで山の歌を歌って、少しだけお酒を飲んで、
大いに鋭気を養い、仕事に、山に元気を出しましょう。
ご家族連で一人でも多くご参加ください。
勿論山岳部員以外の方、おおいに歓迎。

準備の都合がありますから参加希望の方は、

井 戸 (861) 津 田 (798) まで、

お知らせください。 締め切り15日

費 用 大 人 3000円 子 供 1500円

尚 8月21日(日)は、沢歩きもあります、希望者のみ。



エイジレス社会

岡田 茂久

先日の朝刊に大きな活字が踊っていた。……中高年が年齢にこだわることなく多様で新しい生き方を追求する「エイジレス社会」……。

総務庁長官の主幹する「新しい中高年の生活文化を考える懇談会」が提言したもので、人生80年時代を向かえ、経済面だけでなく文化面でも、国民生活に大きな影響を与えつつある中高年の生活意識の問題点として「いつまでも現役でありたい」。「ゆとりある生活態度の欠如」。「年がいもなくといわれる」。等々があげられた。

懇談会ではこれに対して各自の年齢に誇りを持ち、「いい年をして」などのタブーにとらわれず年齢を離れて、自らの能力と責任で自由に生きる「エイジレス（年齢を感じさせない）社会」の実現を提唱している。

ところが登山界、京交山岳部だけあげてもOB連の活躍を始め、中高年パワーは目覚ましく、すでにエイジレス社会を実現している感があり、この報道にはなにをいまさらというところである。

我々が20代の頃を思い出してみると、40、50代の先輩たちはなんとおじんにみえたことであつたろう。今、20代の連中からみると、我々も又そんな感じかもしれないが、情熱と気持ちだけは決して衰えず彼等と同等の意識のつもりである。納山祭やキャンプで真っ先に踊り出すのも、岩を登るのも、沢で真っ先に水に飛び込むのもおっさんである。疑似ピーターパン症候群の雑音も聞かぬが、京都国体の山岳部門をリードしているのも、三国友好登山チョモランマに登頂したのも中年パワーである。

常に現役を志向し、ロマンを求め、「いい年をして」などの声はどこ吹く風。まさに自分の能力と責任で自由に活動できる世界。

山こそ「エイジレス社会」を一步先んじた素晴らしい世界である。山を趣味とした幸せをしみじみと噛み締めているこの頃である。

〔第1693回例会〕

伊那佐山

横井 襄二

本格的な梅雨に入り例会も湿り勝ち、特に日曜日に雨がよく降るようだ。今回も前日は雨で当日も朝少し降っていたが近鉄京都駅へ。まもなく大倉夫妻が来る。しばらく待ったが他は見え、結

局3人で出発する。

この頃より天気も幾分恢復して車窓より陽もさしてくる。京都・奈良の田園地帯を走ること約80分程で榛原に着き、バスで比布まで乗継ぐ。少し歩くと芳野川の土手にでる。目の前に今日の目的の伊那佐山(637,2米)が手のとどく所に見える。アスファルトの道を集落まで行きここを通り過ぎると山道に入る。道端の石標に17丁と刻んである。信仰の対象となっている山によく見られる古い石標である。

道がやゝ狭くなってくるこの辺から杉檜の整然とした植林が見られる。戦中か戦後に切り出した後すぐ植えられたようで30年~40年生位が多いようだ。植林は山を下りる道筋にほとんどなされていた。

鳥居や自明、檜板。(地名の案内)の石碑や十丁、九丁、八丁……の石標見て最後の登りにつく。300米程のジグザクの道を10回程繰返して登りつめると山頂に着く。山頂には社があり、10米四方の塀と柵に囲まれていて案内立派だが境内は雑草が生えてあまり手入れがしていない。

肝心の三角点は社の北西の塀横の影に実に遠慮勝にある。三角点の位置は大体視界良好の場所にあるのだが、此の場所では……。できないとは分っていても掘起して社の前まで移動したい気持だ。三角点に寄りそうように咲く赤い小さい花が余計に淋しそうに感じさすのか。頂上からの展望は南だけで他の3方は不可、遠く東吉野の山が遠望できる。

社務所(吹放しの古い建物)で小休止の後三角点の横を通って下る。200米前後の起伏を繰り返し進むと代採された場所にする。東の山の峰が始めて見える。又今日の山行で始めての人(山の手入れ)にも出会う。道端の所々に山百合が咲いているが、ふき、わらび等の山菜は皆目ない山である。山全体に枝道が多く適切な判断が必要。少し進んで左折すると井足山(506M)の頂上にする。ここで昼食、風が無いので非常にむし暑い。冷めたいビールが喉にしみる。北に額井岳、貝ヶ平山が樹間越しに見えるが、あまり展望はよくない。ゆっくりとしたいところだが非常に大きいやぶ蚊や蟻のためほどほどに出発。

ここからは下り一方ですぐ急な下りがある。植林の中を進み先日の雨で小川化した道を一気に下ると船尾集落に着く。舗装された道を西へと向う。時間のゆとりが大分あるので北側の福地岳(521.1米)へと窓が出るが南の空に雨雲がでてきたので断念。麓の墨坂神社に寄って小休止の後、榛原をあとにした。

近鉄京都7:17 - 近鉄榛原8:40 - 近鉄バス9:25 - 集落登口9:48 ……
鳥居10:00……頂上10:30……頂上発11:00……頂上12:00 ……………
頂上発12:38……集落13:10……神社13:30……近鉄榛原14:12 ——
京都16:04

〔第1694回例会〕

紀伊 龍門山と飯盛山、葛城山 I・II・III等巡る

奥村弘信

7月10日の早朝二台の車に分乗して壬生を出発し、枚方から河内を経て紀見峠を越え、橋本に出て粉河で龍門橋を渡り、みかん畑を巡る林道を走って標高約250米の登山口に9時45分に着いた。

登山コースは左右二つのコースがあり、ひと廻り出来るので登りは右の中央コースをとった。山道に入ったがすぐに迂回する林道と出会い、田代コースと別れて右へ林道を進む。あたり一帯は果樹園でみかんの他に梨、柿、ブドウなどもあり、紀州に来たのだと実感する風景である。林道を廻り込んだ支尾根が登山道で、急坂の石コロが多く、そのうえ雨で削られた狭い足場は歩き難く、風がないので汗が吹き出して苦しい登りであった。ジグザクする道をあえぎながら約1時間で風穴に着いた。風穴は山道を少し外れた所に在って岩の穴が垂直に落ち込み、覗くと暗くて滑り落ちそうである。ここではその前にある切り立つ明神岩からの展望がよくて休憩するのにちょうどよい。間もなく稜線に出て勾配が緩くなり、勝神峠から来る道と合流すると山頂はすぐである。

11時37分、龍門山三等三角点756.6米に到着する。山頂は広い芝の台地が盛り上がったような形をしており、良い眺めが楽しめるかと期待していたが、生憎と晴天にもかかわらず霞んで模糊としていたのは残念であった。昼食は三角点を少し下がった芝の上でとる事に決めたが、ここまで汗をかくて登ったのだから今更暑さに弱音を吐かないだろうと、我慢強いのか、やけくそか、じりじり照り付ける炎天下で車座になる。先ず冷えた缶ビールで乾杯するが、こんな時のビールは何にもましての甘露である。だが大槻君が苦勞して担ぎ上げてくれた冷やしーめんは暑い山頂での贅沢な御馳走で、美味しく有り難いものであった。

滞頂一時間で下山は東廻りの田代コースをとる。すぐ道の傍らに天然記念物の蛇紋岩がある。磁石を岩に置くと磁針が振れて北を指さない。尾根伝いに緩やかな道を下って田代峠から左へ折れるが、中央コースよりかなりいい道で、途中で水場もあった。林道まで戻り谷から引かれたホースで水を頭から浴び、生き返った心地である。

すぐに林道を下って紀ノ川沿いを走り、麻生津から飯盛山に向かう。果樹園と民家が散在する急勾配な道を走るが、よくもこんな不便な所で生活が出来るものだと感心する。麻生津峠を廻り込んだ所より尾根の道に出ると、レジャー様建物の薬草釜風呂があり、さらに進むとお城があった。南北朝時代にあった城の復元らしいが、何故こんな所にどうしてと言った疑問が湧く。さらに尾根通しに走り、ゲートより奥へ進んで飯盛山直下で車を止めた。

ここから一直線に急登するとわずか5分で飯盛山の山頂である。木立ちに包まれて展望の全くない、草むす台地の中央に二等三角点745.7mが据わっていた。時間はすでに16時近くだが、こ

ここまで来れば車で行ける和泉葛城山へも行こうと決めて滞頂20分余りで下山した。

紀ノ川を渡って那賀町に入り山道にかかるが、相当荒れているので埃を巻き上げながら走る。無線中継所のある峰の下を通って葛城山石宝殿の広場に着いた。地図がないので見当をつけ小高い所にある石宝殿の付近で三角点を探すが見当たらず、人に聞けば三角点はもっと東の嶺にあると教えてくれた。引き返して河内へ下る道の分岐に車を止め、ここから無線中継所へ行く道を歩く。途中から左の尾根道に出て登ると無線中継所のフェンスのそばに葛城山一等三角点865.7mが据わっていた。山道を歩いていて見つまずきそうな所で、凡そ一等三角点の据わる位置としてふさわしくない環境と場所で、風格のない三角点であった。

帰路も再び河内から枚方を経由して京都へ帰って来たが、日帰りで遠くの山を、それも一等、二等、三等の三角点の山を巡って来られたのは、日が長いせいと、車だったからで、欲張りな山巡りであった。

〔コース・タイム〕

壬生6.37→龍門山林道登山口9.45～10.00→風穴10.58～11.15→龍門山Ⅲ△756.6m(昼食)11.37～12.40→田代峠12.56～13.07→龍門山林道登山口13.40～13.55→飯盛山林道終点15.06～15.15→飯盛山Ⅱ△745.7m15.20～15.43→飯盛山林道終点15.53→和泉葛城山石宝殿前17.02～17.10→林道分岐点17.15→和泉葛城山Ⅰ△865.7m17.03～17.42→林道分岐地点17.55～18.00→レストラン(夕食)19.13～20.10→京都22.10

〔参加者〕 岡田 大槻雅 三橋 津田 横井 渡辺朋 方山 原田 奥村

北海道の山旅

坂井久光

5/30 ハワイへ娘と孫を送って北海道へ出発。敦賀へJRで行き、フェリー港へ車で、フェリーニューユーカリに乗船。

6/1 小樽に上陸、上口さんが車で出迎えてくれたのに驚いた。宅で朝食を御馳走になり、倶知安の友人船場さんを紹介してくれた。すぐ倶知安の三角山へ行くのに交通の便悪く、札幌の友人に合いに行くことにする。久しぶりに友人を尋ねて土産を渡し大通公園へ行き、すすきのをぶらつきライラックの花盛りを賞でて中島公園で別れて旅館で一泊、翌6/2 同窓の森田を武長ビルに訪れ昼食を料理店で馳走になる。午後大通公園で世界食博の前田祭行列に遭う。金髪の外人も多数参加、10月迄続くとか、友と別れてバスで北湯沢温泉へ、洞爺湖行で喜茂別で乗換へ、伊達行にに乗車、車中で洞爺湖プリンスホテル支配人伊藤氏と知合う。北湯沢温泉の民宿高橋で一泊、温泉は無色透明で明治30年藤原平兵衛測量技師の発見に依り開発された良泉である。

6/3 朝雨で登山をあきらめたが近くにユースホテルがあるので訪れ、雨が上ったので、登

山口迄車で送って頂き徳舜瞥山～ホロホロ山へ向った。登山口には自家用飛行場で、川沿いに登路があり山麓の緩い上りで白樺やエゾ松、ミヅナラの雑木林を通り、ダケカンバやハイマツの谷間に残雪のある所から大きなジグザグで山頂へ、濃いガスで見晴のない徳舜瞥山頂だった。西へ強風の尾根筋を下ってハイマツの間を上って岩山のホロホロ山一等三角点へ、ガスで展望〇、幸い雨も降らず一休して下山、大滝に下山してヒツチしたが途中迄、3 km手前から歩いていると白絹の床で、バイク旅行の神戸の娘さんと会い、ユースホステルへ案内して一泊した。彼女は看護婦さんで名勝地を観光旅行中とか。

6/4 雨。俱知安のニセコ荘の始湯へ、俱知安駅から電話すると車で迎えに来てくれた。彼は以前営林署の寮に勤めていたが、合理化で辞めてニセコ荘の管理人と眺平荘の経営をしているとか、今西さんの雷電岳登山にポッカで参加したので、平野や横田・柳田等と知合とか。雨の中を三角山の登り口迄車で見に行き京極の日本百名水の湧水地へ案内して頂いた。

羊蹄山麓からの湧水は豊富で冷く甘い。一休して帰り、翌5日も雨で3泊して、6/6 8時出発。830山麓の大和の竹内さんに行き、昨年の御世話の礼を述べ、著書を渡して登山口の小沢の出合へ、道はなく支尾根の西側の小沢をつめて、支尾根に出て登るのがよいとのアドバイスで、1 km 迄谷を廻り、ガレ場を登って支尾根に出たが、道はなし根曲竹の藪で水ナラやエゾ松・白樺の林を登り、残雪のあるコルへ出て踏跡に出合うが暫くして消える。残雪を辿って肩に出てエゾ桜の咲く山頂へ。雪がなく展望雄大、ニセコや羊蹄山が正面にホロホロ山や余市岳が見晴らせ、三角点の横に櫓の丸太がつんであった。

少時休憩して下山、少し右へ振ったのがあやまりで、少し西のクトサン川の支流へ下りそのまま下って踏跡を辿って林道へ出て未広開拓地に下山、民家で電話で車を呼んでもらいニセコ荘へ帰宅した。

翌6/7 船場さんに別れを告げ貫気別山麓の登開拓農場の林道終点へ送って頂き、ガスが濃いい中を登り営林署の林道を辿り落葉松の植林地を通して藪へ突入、白樺林の緩斜面を根曲竹の藪を漕いで山頂へ、ガスで展望なく、少時休んで途中、藪の薄い所を下山して小沢を下り、途中山菜取りの室蘭の婦人が道に迷い、私を見つけて助けを求めたが、私も道は判らずキンコウカの咲く沢を下り続けて、林道に出て右へ山腹を巻いて元の農場へ出て、農家の老人の車で中程の農家で別れて歩いて車道を下山。室蘭の人は車で反対側の林道の駐車地へ別の車で送られて行った。登川温泉のバス停へ行ったが、18時迄バスはなく、白樺食堂の車で留寿都へ送ってもらい、ニセコへバスで行き、駅へ行ってJRで蘭越のときわ旅館で一泊。

6/8 バスで名駒へ行き、民家の人に頼んで、ツバメ沢奥の農家迄送って頂いた。農家で山の様子を聞くと主人は亡く未亡人一人が住んでおり、幌別山(一等△)の様子を聞いたが、830mの三角点迄は人が入るが、その先は道はよくないとのことで、幌別山へは三笠(目名町)から入ると聞いた。その先は牧場の跡で、牧柵らしい杭が残っていたが牛の姿は見え、一面の荒野であった。地図の破線路は谷奥迄林道と変わり、林道をつめて終点の藪を右へトラバースして旧山道と出合った。良い山道で急坂を登ると、白根葵が紫の美花を咲誇っていた。前山に差かかったらブナの北

限地の広板があった。昨年登った狩場山が一般にブナの北限地として知られているが、此所とは始めて知った次第である。

津軽海峡が猿・月の輪熊・本土狐・兎等動物や植物の境界として有名であるが、ブナ・松・杉等は道南地方には生えており、北限地である以北には、之等に代りミズナラ・エゾ松・トド松等が生えている。

道は傾斜が緩くなり、やがて山頂へ。道の真中に三等三角点があり、その西側に北電のマイクロウェーブ反射板が立っていた。

少時休憩して、南に聳える幌別岳が残雪のピークを望まれた。眼下に広駒町の田園・原野に羊蹄山・ニセコ山群・昆布岳が眺望出来た。

北に雷電山が残雪をちりばめて見えた。道は西に匍松の間に続き、荒い切開が続きその間に根曲竹が生えていたが少し下ってコルに近づくと根曲竹のブッシュに道は消え、先を探すがビッシリの猛藪で向いの山に道らしいのが見えたがそこ迄行けそうもない位の背の高いブッシュで残雪に熊らしい掌状の趾跡が見られた。時間は1 1.3 0だったのだが、余り藪がひどく時間と労力がかゝり又空が曇って来たので残念ながら引返すことにした。往路下山して谷川に下り顔を洗い汗を拭いて一休みして林道に出て農家の先で一休しているとトラクターを乗せるトラックが来て蘭越へ行くとのことヒッチした。青年で修理に行くとのこと、駅で厚く礼を述べて別れた。京都から一人で来たのに驚いていた。一時間程時間を茶店でつぶしてJRで小樽へ、夕食を駅食堂ですまして友人の上口を訪れ別れを告げたが一泊をすゝめられ泊って朝食後港迄送ってくれた。

秋の国体に再会を期して別れてフェリーと乗った。6/10 舞鶴港上陸JRで帰京。

(コース・タイム)

-
- 5/30 8:35 京都駅-21:30~35 敦賀-21:48~23:00 フェリー-港-
6/1 5:00~05 小樽港-6:30~7:00 小樽駅-8:05 札幌泊
6/2 14:00 札幌駅-15:46~16:56 喜茂別-17:45 北湯沢温泉
6/3 9:50 ユースホステル-10:08 登山口-10:45~50 アト3K-12:
07~15 徳舜瞥山-12:43~50 ホロホロ山一等△-13:14 徳舜瞥山-1
14:55 登山口-15:30 大滝本町中央-16:38 北湯沢ユースホステル(泊)
6/4 8:35~49 北湯沢バス停-10:26 倶知安ニセコ荘(泊)
6/5 雨停滞 6/6 8:00 出発-8:30 林道登山口-9:11~16 尾根
10:12 コル-11:17~30 三角山(久土山)1等△-12:30 谷へ下ル
14:20 林迄-15:30~45 未広-16:00 ニセコ荘-
6/7 8:40 出発-9:55 登開拓林道(農場)-10:15~20 林道-10:37
林道終点—貫気別山1等△13:50~55-登農場14:30~35
登衛道入口(学校前)-15:15~40 登り湯-15:55~16:57 留寿都-
17:30 ニセコ本通-17:39~18:18-ニセコJR駅-18:27 蘭越
6/8 8:20 バス停-8:35~42 名駒町-8:48~53 農家-7:28~35 車道

終点-9:45~50林道終点-10:59~11:14三等△-11:30引返す-
11:50~12:00三等△-12:56~13:00谷川-13:37農家ヒッチ
-14:10~15:23蘭越-17:46小樽(泊)-
6/9 8:30~10:00小樽-
6/10 17:00-舞鶴港-17:10~41東舞鶴駅-18:18~48綾部-20:
20:00二条駅

念 仏 ▲ 726.8 M 登頂記

津 田 実

前日の天気予報によれば余りよい天気とは言えぬ休日らしい。約束していた比良山系を断念、一日読書で過ごすと思っていたところ岳友からの嬉しい山行のお誘い、先日来約束の念仏え行くとのこと仕事の都合が付いたらしい。

読書なんてガラにもないことを思い付くこと自体、不遜の誘いを免れ得ぬと、勝手な理屈を付けて家を飛び出す。

湖北の阿弥陀え行ったときも大槻さんと一緒だった、彼とは何か仏縁があるらしい、仏縁ついでに念仏とは何か、またもや辞書氏の啓示を受ける。

「念 仏」

仏の相好(そうごう) 功德(くどく)を觀じ、口に仏名を唱えること。

善導以後の浄土教では、特に阿弥陀仏の名号を称えること。

西方往生の根本業因とすること。

そんな結構な尊称の付いた山え行かなんたら仏罰が当たる。

見慣れた赤樹の橋を渡って九鬼ヶ坂を越えると静原の信号に出る、棚野川を遡上、砂木の集落を右に見送り、安井谷林道を約3km程入ると林道は終わった地図上450m付近と覚える。

林道終点から本谷に沿って小径をたどる、右、左の小谷を見送りどんどん登っていくとどちらが本谷か判らない所にでた。この付近は精密な読図力が要求される場所である。飽迄も本谷をツメて最後の二股を左の涵沢をお得意の4WDで必死に駆け上がると突然稜線に出た。

そこは、今までの暗い谷筋と違って疎林の間に歩き易い小径が付いていた。

帰りの為に目印をつけて左の小高い峰を一つ越えると目差す△に到達した。

山頂で大槻さんが冷たいソーメンをクーラから出してくれたのには驚いた。よくもまあこんな重いものをカツイデあの速足、彼のスタミナに脱帽、コレにお目にかかるのは鈴鹿以来である早速有り難く賞味させて戴く渴いた喉にこれほど結構なものはない。薬味も味付けもまったくよいことづくめ。更に、三橋さんがラーメン作ってくれる、腹の中は冷いのやら熱いのやら正に盆と正月が一遍に来たようなものだ。オバハンが眠たいのを我慢して作ってくれた弁当は食べられ仕舞いだった。

小生にはもったいないよい友である。

下りは、登りより一層むっかしい夏草で足元が見えない、油断をすると滑落、骨折疑いなし慎重に降りよう、それでも登りの半分の時間で林道に出られた。

谷間の清流で汗に濡れた身体を洗い、衣服も換え身も心も軽く帰宅した。更に幸運にも自宅の玄関?を入ると共に猛烈な雨が降って来た。

63年7月3日曇り

津田 実 大槻 雅弘 三橋 勉

[コースタイム]

津田宅7.20 - 美山町安井谷林道終点9.00~9.10 谷分岐左へ10.03 稜線10.35~
10.40 2等△念仏山頂10.45~11.36 谷分岐12.00 車止12.20~12.33
— 市内15.00

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1686	辰歳シリーズ 龍門岳	6月12日		大槻 雅弘		中止しました。
1692	万葉の山 吉野山	6月19日		井上 一夫		中止しました。
1693	伊那佐山	6月26日		大倉寛次郎	大倉 夫人 横井	別稿詳報
1694	辰歳シリーズ 龍門山	7月10日		大槻 雅弘	岡田、三橋 奥村、津田	方山、 原田、横井、渡辺(朋) 別稿詳報

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
鉢ヶ峰	6月19日	晴	大槻 雅弘 津田 実 三橋 勉	この6月は、仕事と天候で予定が全く立たず、前日の遅くか当日にならないと休めるかどうか解らないということで困ってしまった。でも、身体があき次第どこかへ行きたくなり、仕事の相棒の三橋さんと「じゃ、明日8時に」ということで、こゝ2,3回北山へ足が向いた。前から気になっていた針ヶ峰であったが、思ったより径がよく、おまけに西面は伐採されて径はよし、景色はよしで文句なし。△778.6三等は北山らしからぬ展望のよい頂上であった。

雑報

7月の集会

10日 場所 厚生会館4F大教室

出席者(本局) 鷺見、大槻、三橋、古市、和田、方山、大木、井戸、竹田、山元

(高速) 岡田 (OB) 近藤、奥村、横井 以上 14名

○インドア「観天望気」 鷺見 敏一

○例会報告、厚生会登山、京都国体山岳競技会場の一斉清掃について

なお、国体山岳競技会場の清掃については、9月25日(日)(雨天の場合10月2日(日))に行われますので、部員の皆様のご協力をお願いします。(詳細は次号に掲載)

✿ 他山岳会の会報(受贈分)

6月号 青嶺

7月号 北山、京都山岳、近畿山行、比良山岳、趣味の登山、一等三角点

✿ 写真展のお知らせ

第9回山岳写真の会「白い峰」写真展

日時 8月19日(金)～8月25日(木) AM11時～PM8時

場所 大阪マルビル3F

✿ 講演会のお知らせ

チョモランマへの道(講師 潘多女史)

日時 8月25日(木) PM6時～PM7時30分

場所 華頂女子高等学校

△ 部費受領

(OB) 森下 村重、伊藤 潤治、中村 維源、田中 定勝、山村 敏郎、畑 照人
石田 和男、山下 周道、坂井 久光、奥村 弘信、河村 清、北林 修一
上原 昭二、横井 襄二、谷尾嘉津子、渡辺 朋子、林 宗松、辻 久雄
今井勇一郎

(本局) 渡辺 智生、長谷川雅也、官川 勇、山田 富男、足立 公弘、田中 明
木下 嘉造、平野 裕、前田 文男、関本 俊雄、山元 誠一、大切 照男
方山 宗子、大槻 雅弘、佐々木敏雄、佐伯 康介、三橋 勉、沢井 佳三
原田加津子、上島 弘子、藪田 民栄、鷺見 敏一、立花 雅彦、楠 とし子
若山 裕孝、広瀬光太郎、鎌田 利雄、上村 次男、竹田 勉、大木 秀実
岡本 孝、大杉 雅晴、和田 良一、大塚 孝之、猪飼 康夫、柳田 晃
井上 一夫、松井 都夫、古市 昌造、井戸 澄夫、角田 敏昭、山口 雅直
田村 正弘、伊豆 蔵清、鷺見寿末子、森塚 良郎

(高速) 篠田 勝美、今井 武夫、中島 孝生、矢野 聡、中村富美夫

(九条) 大槻 貞従 (梅津) 蛭子野俊雄 (横大路) 岡本 義弘 (錦林) 竹村 芳広

(烏丸) 坂田 利春、上田 嘉夫、戸倉庄之助、久保 忠三

(洛西) 武田喜久郎、竹井 章、田中 繁行、加門 勝弘、井口 寿雄、谷口多加志

訃 報

山岳部員の加地 卓男氏は、かねてから病氣療養中のところ6月29日、ご逝去されました。
享年43才。謹んでご回向と御冥福をお祈り申し上げます。

訃 報

山岳部員OB部員の谷尾嘉津子氏は、かねてから病氣療養中のところ、7月13日、ご逝去
されました。享年59才。謹んでご回向と御冥福をお祈り申し上げます。